

巻頭言

名古屋学芸大学健康・栄養研究所
所長 下方 浩史

地球温暖化とは言え、今年の冬もやはり寒い日が続いています。さて、今年も健康・栄養研究所年報の第10号を無事に発刊することができました。本誌は名古屋学芸大学健康・栄養研究所の研究や実践活動の成果の発表の場であるとともに、その成果を広く社会に知っていただくために発刊を続けています。2009年から、本誌は医学中央雑誌データベースに定期刊行物として収録され、医中誌 Webでも検索できるようになっています。第10号では原著5編、報告1編、総説2編の論文を掲載しています。

原著では「簡単に作れるカラフル朝食を家族で楽しむことを目指した幼児と母親のための朝食共食プログラムの検討」、「非肥満者の代謝異常リスク解析－大規模健診コホート研究」、「非肥満者の代謝異常の加齢、時代、コホートによる縦断的变化－大規模健診コホート研究」、「認知機能検査 (MMSE) ≤ 10 点は骨格筋量減少のリスク因子である」、「若年女性のやせ願望と心理的ストレス」と、食育、隠れメタボのコホート研究、認知機能と骨格筋量減少、やせとストレスなど多彩な研究の成果を掲載することができました。

報告では、「健康会席弁当箱の考案」、総説では「ゲノム編集の原理と利用,そして課題」、「学校における食育の推進と食に関する指導の変遷－学校における栄養・食教育の位置付けの考察」と食育や食活動の実践、そしてゲノム編集と幅広い研究の報告、紹介がされています。

本号は、「食」を主題にした論文が多く集まりました。「食」という字は、「人」と「良」が合わさって出来ています。この字のとおり、「人」を「良」くすること、すなわち「人」の心身の健康を保ち、「人」を元気にして、さらに人間性を高めていくことが「食」だと思えます。現代社会において「食」そして栄養の持つ意義は高まっています。本誌が少しずつでも健康科学、栄養科学研究の進展に役立っていくことを願っています。